



# 寅年は、物事が芽を出し、延びる年

客員相談役 藤井 基之



新年を迎えました。

今年の干支は、「寅」。「猫は虎の心を知らず」、「虎の威をかる狐」、「虎の尾を踏む」、「虎口を逃れて竜穴に入る」、「虎は死して皮を留め、人は死して名を残す」、「虎子地に落ちて牛を食らうの気あり」・・・など、虎にまつわる色々な言葉や諺ことわざがあります。それだけ虎は人間にとつて親しい、というより印象深い動物なのでしょう。

親しいと言えば「私、生まれも育ちも葛飾柴又です」の口上でおなじみのフーテンの寅さんは、お正月映画の定番でした。寅さんという名前からすると、当然、寅年生まれだと推測さ

れます。一九六九年に制作された第一作の『男はつらいよ』にて、十六歳で家出した寅次郎が二十年ぶりに帰郷したことになっていきますから、その年は三十六歳。その時点で三十六歳ということは一九三三年生まれということになります。しかし、一九三三年は寅年ではなく酉年。その年の近辺で干支が寅

だったのは一九三八年です。五歳ばかり年が合いませんが、まあフィクションだから誤差範囲と暇つぶしにこんな推測をしてみました。寅さんの生年月日は

十一月二十九日、干支は「辰」なのだそうです。大船の「鎌倉シネマワール」には昭和十五年（一九四〇年）

「ド」（一九九八年に閉館）の展示でその書いてあったとか。

ところで、この子、丑、寅と始まって亥までの十二の干支。私たちはそれぞれ十二種類の動物を表しているとして解していますが、実は「陰陽五行説」では植物の一生を表しているのだそうです。

まず「子」は本来「孕む（はらむ）」で、新しい芽が種子の内部に宿る状態。そして「丑」は「紐」で、芽が種子の内部で伸び始めた状態。そして「寅」は「演」で、「延（えん）」と同音となり「延びる」という意味がある。つまり種から芽が延び出てゆく状態。その次の「卯」は「萌（もえ）う（おお）う」

で、草木が延びて茂り、辺りを覆った状態。「辰」は「震」で、大地が震え、草木が伸長してゆく状態。「巳」は「紀」で、繁りが最高に達した状態。「午」は「忤（う）（さ）からう」で、枝葉が盛りを過ぎて枯れ始める状態。次の「未」は「味わう」で、枝葉に代わって実が大きくなり始め、味が増してゆく。「申」は「呻（う）めく」で、成熟した果実が固まってゆく状態。「酉」は「醸（か）もす」で、ブドウ果汁

がワインに変わってゆくように最高に熟した状態。「戌」は「滅」で、果実がしぼんでゆく。そして「亥」。亥は「核」で、再び種子を結び、その中に次の生命が宿る。

とまあ、こんな意味合いだそうです。したがって「寅年」は種から芽が伸び始める。つまり物事が成長、発展に向かって第一歩を踏み出す年というわけです。しかし、じっとして待っているだけ

では成長はありません。先行きを心配して躊躇ちゅうちゆしていたのでは、進歩はありません。「虎穴に入らずんば虎児を得ず」この気概で今年もがんばりましょう。その前に、調理師の皆様が腕にヨリをかけて作っていただいたお料理で、鋭気を養うことといたしましょう。お正月ぐらい、少々余計に飲んで

「虎」になってもいいですよ。

## 藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 1回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ <http://www.mfujii.gr.jp/>

●その他 薬学博士・薬剤師  
●私の政治信条  
私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー:薬物乱用のない社会)社会創りです。

高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。

好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」

●活動報告  
参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。

●経歴  
昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業  
昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業  
昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業  
昭和44年 厚生省入省  
平成9年 厚生省退官  
平成9年 財団法人ヒューマンサイエンス振興財団 専務理事

平成12年 日本薬剤師連盟 副会長  
社団法人日本薬剤師会 常務理事

平成13年 参議院議員  
平成16年 厚生労働大臣政務官  
(平成16年9月~平成17年11月)

平成19年 日本薬剤師連盟 顧問

●その他  
慶應義塾大学薬学部 客員教授  
昭和大学薬学部 客員教授  
東邦大学薬学部 客員教授  
新潟薬科大学 客員教授  
京都薬科大学 客員教授  
近畿大学薬学部 客員教授  
千葉大学薬学部 非常勤講師